

中等教育研究開発室年報 第35号（2022年3月31日発行）別冊電子版
2021年度 授業実践事例

保健体育科 高等学校第Ⅱ学年

ジェンダーと性の多様性を考える—多様な性を認め合う社会を目指して—

授業者 磯村 美菜子

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

高等学校 保健体育科（保健） 学習指導案

指導者 磯村 美菜子

日時	令和3年11月27日（土） 第2限 10:35～11:25
場所	第3研修室
学年・組	高等学校Ⅱ年1組 38人（男子22人 女子16人）
題材	ジェンダーと性の多様性を考える
目標	1.性の多様性やジェンダーについての知識をもとに、新たな問いを立てることができる。（知識及び技能） 2.性の多様性やジェンダーに関する自他や社会の課題を発見し、解決に向けて考えることができる。（思考力、判断力、表現力） 3.性の多様性やジェンダーに関する多様な他者の意見を尊重し、受け入れることができる。（学びに向かう力、人間性等）

指導計画（全6時間）

- 第一次 教科書「性意識と性行動の選択」の内容理解 1時間
- 第二次 ジェンダーバイアスについての意見を出し合う 1時間
- 第三次 オリンピックとジェンダーに関わる問題について考える 1時間（補足指導案）
- 第四次 ジェンダーに関するテーマについて調査し発表する 3時間（本時3/3）

授業について

本単元では、保健教科書の「性意識と性行動の選択」における「異性（他者）尊重」の学習内容を発展させ、ジェンダーバイアス（性に基づく役割や期待）や性の多様性（「男と女」という性の二分法を乗り越えた視点）について考える授業をテーマごとのオムニバス形式で行ってきた。第一次から第三次では、日常生活や社会に潜むジェンダーバイアスや、オリンピック（スポーツ）におけるジェンダーイシューに視点を広げ、性に関する固定概念に「疑問をもつ」ことをねらいとした。

また、単元を通して、「Mentimeter」や「Google form」などのアプリケーションを使用することで、他者の意見を可視化させて多様な考えに触れることを取り入れてきた。さらに、「構成的グループエンカウンター」、「ジグソー法」などの手法を用いることで、性に関する対話をしやすい雰囲気づくりを心がけ、他者との対話を通して自身の考えを広めることを活動の軸としてきた。

本時では、単元のまとめとして、生徒による発表を行う。発表の内容は、ジェンダーギャップ（男女格差）指数の分野である経済、教育、健康、政治や、ジェンダーに関する社会事情の中から、グループでテーマとそれに関する問いを設定し調査した結果である。調査の結果について、他者の意見を尊重しながら、テキストマイニング等の手法を用いて分析・まとめを行い、発表する。これらの活動を通して、ジェンダーの観点から、他者を尊重し認め合うことが、自他の心身の健康の保持増進や対等で平等な人間関係につながることを考えさせることをねらいとした。

題目 高校生がジェンダーについて真剣に考えてみた

本時の目標

- 1.調査結果について、収集したデータや他者の意見を分析し分かりやすくまとめて他者に伝えることができる。（思考力、判断力、表現力）
- 2.他者の発表を積極的に聞き、自分の考えを広げることができる。（学びに向かう力、人間性）

本時の評価規準（観点／方法）

1. 調査結果を収集したデータや他者の意見を分かりやすくまとめて伝えている。（思考力、判断力、表現力／発表）
2. 他者の発表を積極的に聞き、自分の考えを広げようとしている。（学びに向かう力、人間性／振り返りシート）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
【導入】 本時の説明	○発表の手順説明 ○振り返りシート配付 ○発問 9つのテーマの関連性を考える。	・発表が全て終わらない場合は、発表予備日に続きを行うことを伝えておく。
【展開】 伝える 疑問をもつ	○各グループによる発表 （9グループ×5分） 【第1部】 ①ジェンダー差別の歴史(G7) ②女性の政治参加(G8) ③アイスランドのジェンダーギャップ指数が小さい理由(G1) 【第2部】 ④LET TOYS BE TOYS 運動について(G3) ⑤男女別・男女混合名簿について(G6) 【第3部】 ⑥男女の交際費用の意識と実態の差(G4) ⑦告白、プロポーズは何故男性から！？(G9) 【第4部】 ⑧男女を区別する代名詞(G2) ⑨CM・広告批判, 過剰すぎない?(G5)	・3分30秒でベルを1回鳴らす ・4分30秒でベルを2回鳴らす ⇒まとめさせる
【まとめ】 受け入れる	○振り返りシートへの記入 ・この活動を通して考えたこと ○まとめ ・ジェンダーの視点から当たり前を疑って客観的にみる ・ジェンダーの問題は多岐にわたる ・他者の意見を尊重しつつ、自分の考えを持つ	・まわりとシェアすることなく、個人の率直な考えで書くことを伝える。 ・生徒のスライドを使用しながら行う。
備考		

補足指導案 (3/全6時間)

題目 オリンピックとジェンダーに関わる問題について考える

学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
【導入】	○オリンピックで印象に残った種目について考える。[Mentimeter] ○オリンピックで印象に残った選手について考える。[Mentimeter]	・Mentimeter を用いて全体へ共有する。 ・ICT 機器を保持していない生徒に iPad を渡す。
【展開】	○オリンピックとジェンダーに関わるクイズを解く [Kahoot]	・4人1組で行う。
興味を持つ	<p>①この人は誰？(橋本聖子さんの写真)</p> <p>②橋本聖子さんは夏冬合わせて7度のオリンピックに出場し、『五輪の申し子』と呼ばれていました。夏季の種目は？(4択)</p> <p>③トランスジェンダーの選手は、生物学的な性と異なるオリンピック種目への参加が認められていない。(正誤)</p> <p>④東京2020オリンピックの女性の参加率は？(4択)</p> <p>⑤日本(混成を除く)メダル55個の男女比は？(4択)</p> <p>⑥クーベルタンは、女性がオリンピックに参加することを全く考えていなかった。(正誤)</p> <p>⑦女性が初めてオリンピックに参加したのは何オリンピック？(4択)</p> <p>⑧ロンドン大会(1908)では女子の優勝者には賞状のみ与えられ、メダルはもらえなかった。(正誤)</p>	
読み取る	<p>○2つのニュース記事について読みペアで伝え合う。[ジグソー法]</p> <p>①ホルモン値で出場できなかったナミビアの女子陸上選手についての記事</p> <p>②トランスジェンダーの重量挙げ選手についての記事</p> <p>○ニュース記事を踏まえ、問いについての自分の意見を持つ</p> <p>スポーツにおける性差について、そもそも、「男」「女」という二元論的な考え方は適切なのか</p>	・2人1組で行う。
【まとめ】	○Google Form で問いについてのクラスの意見を共有する	
受け入れる		

高2 保健 ジェンダーについて高校生が真剣に考えてみた 2021.11.1

<目的-なぜジェンダー[社会的な性]を学ぶのか->

- ・「女らしさ」「男らしさ」の枠組みにとらわれず、自分がどう生きていくかを考えるきっかけとして
- ・性に関する多様な価値観やアイデンティティを持つ他者を理解し関わっていくための入り口として

<今後の予定表>

日付	内容	備考
11月1日(月)	テーマ決め	@教室
11月8日(月)	発表準備①	@情報館
11月11日(木)	発表準備②	@情報館
11月22日(月)	発表準備③ 【倫理審査】	@情報館
11月27日(土)	発表 【研究授業日】	@第3研修室
12月6日(月)	発表予備日	

<テーマの例>

【経済】

- ①食事代はだれが払う？割り勘する男性はケチ？：男女の賃金格差
- ②ピンク税って何？：男女でかかるお金の違い

【政治】

- ③国会議員の男女差：各国と比べて実際どうなの？

【健康】

- ④医療のバイアス：医学研究の成果は男性に偏っているって本当？

【教育】

- ⑤名簿の一番はなぜ男子？：学校×ジェンダー
- ⑥Let toys be toys 運動とは？：おもちゃ×ジェンダー
- ⑦東大女子は合コンで「東京の大学」と濁らせるって本当？：学力差と進学率

【その他】

- ⑧一般代名詞「hen」って何？ theyって複数形じゃないの？
- ⑨CM・広告批判、過剰過ぎない？：メディア×ジェンダー
- ⑩ジェンダーギャップ指数でアイスランドが世界最小の理由とは？

※もちろん、上記以外でテーマを設定して構いません！！

(佐藤文香ほか ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた 明石書店)

<発表形式>

- ・パワーポイント（ひな形あり）
- ・パワポ以外の発表形式は要相談（Kahoot や動画など）

<発表の構成>

- ・STEP1 【疑問を持つ】テーマ（問）
- ・STEP2 【読み取る】問に関するデータを収集してまとめる
- ・STEP3 【話し合う】問に関する解決策や、実際に行われている対策に関してグループ内の考えをまとめる
- ・STEP4 【受け入れる】Google Form や Mentimeter を用いてクラスの意見をまとめる（※事前に倫理審査）
- ・STEP5 【伝える】発表のまとめ

<備考>

- ・各グループの発表時間は5分以内。（スライド7～8枚程度）
- ・パワーポイントの作成は、項目ごとに担当を決めるなどして協力して行うこと。
- ・文字は最低28pt以上、写真やデータ・グラフ等を用いてわかりやすくなるよう工夫すること。
- ・信頼できる情報源（1次情報や、情報源がはっきりした2次情報）から情報を収集し、スライドやデータの下に、使用したHPのタイトル・URLを提示すること。

<35のデータで知る日本の男女格差>

- ・「女子は男子よりも料理が上手にできたほうがよい」と思う10歳女子 _____%
- ・結婚で夫の姓にする女性 _____%
- ・博物館の学芸員 42・6% ⇔ 博物館の館長 _____%
- ・女性議員ゼロまたは1人だけの地方議会 _____%
- ・企業の部長職 _____%
- ・サッカー皇后杯の優勝賞金 男子の 1 / _____
- ・裁判官 _____%
- ・育休を「とりたい」「できればとりたい」新入社員の男性 _____% 男性の育休取得率 _____%
- ・市区町村長 _____%
- ・医学部入試で女子差別などを指摘された大学 81 大学中 _____大学
- ・医師 _____%
- ・賃金格差（男性=100としたときの） _____%
- ・家では誰が家事をしているか「ほとんど女性」 _____%
- ・東京大学の教授 _____% 学部学生 _____% 旧7帝大の学部学生 _____%
- ・衆議院議員 _____% 地方議員 _____%
- ・内閣 _____人 / 20人中
- ・小中高校の校長・教頭 _____% （朝日新聞社 <https://www.youtube.com/watch?v=HnrUIS9TRNY>）

【発表前チェックリスト】

■STEP1 【疑問を持つ】テーマ（問）

- 発表の内容はテーマに沿ったものになっていますか？
- 発表を通して問に関する答えや答えに相当する意見が導きだされていますか？

■STEP2 【読み取る】問に関するデータを収集してまとめる

- データは信頼できる情報源から収集していますか？
- グラフや図は見やすく提示されていますか？（×タイトルが小さい、サイズが小さい）
- グラフや図に関する解説はできますか？

■STEP3 【話し合う】問に関する解決策や、実際に行われている対策に関してグループ内の考えをまとめる

- 収集したデータや情報に基づいたグループの意見が述べられていますか？

■STEP4 【受け入れる】Google Form や Mentimeter を用いてクラスの意見をまとめる

- オープンエンドの質問ができていますか？
- アンケートの結果から分かったことを述べていますか？

■STEP5 【伝える】発表のまとめ（結論）

- 発表で伝えなかったことをまとめたスライドがありますか？
- ☆「健康」と関連したまとめができていますか？

■発表の仕方

- 発表は5分以内に収まりますか？
- スライドの情報と読み上げる情報が重複しすぎていませんか？

■倫理審査

- アンケートで得た情報を個人が特定されない形で提示していますか？
- 差別的な文言や特定の人がかたがたに思われるような表現はありませんか？
- 参考文献として、情報源を表示していますか？

実践上の留意点

1. 授業説明

本単元では、保健体育科の教科主題である「共生」というキーワードを、取り扱うテーマと学習の方法に取り入れた。テーマは、保健教科書における「性意識と性行動の選択」の内容を発展させ、「ジェンダーと性の多様性を考える」という題材であった。また、具体的な学習方法として、第一次から第三次における授業展開での話し合いや意見交換を活発にするため、「Mentimeter」や「Kahoot」、「Google form」などのアプリケーションを用いた。さらに、それらのアプリケーションを、単元を通して使用することで、他者の意見に触れることや、第四次における Google form でのアンケート調査がしやすくなると考えた。第三次の学習内容は補足指導案として提示した通りである。第四次における発表の形式を「ジェンダー×オリンピック」というテーマで実際に体験することで、活動の内容を理解することができた。

第四次では、「ジェンダーについて高校生が真剣に考えてみた」という題で、グループに分かれてそれぞれのテーマについての発表を行った。準備段階では、STEP1から STEP5までの発表の構成に沿って、それぞれの学習活動の目的を探求ファクターで示した。それによって、短い時間でも何をどのように進めればよいのか明確にすることができた。また、テーマはジェンダーギャップ指数の4つの項目(経済・政治・健康・教育)をもとに教師が設定した。テーマの中には、生徒にとって身近なものからそうでないものまで混在していたため、統一性に欠けてしまっていた。さらに、ジェンダーという概念が多岐にわたる問題であるため、学習内容が「健康」とかけ離れてしまう発表内容があった。第四次の最終時である本時では、導入時に、「これらのテーマを一冊の本にするならどのように並べ替えるか」という発問をすることで、それぞれのテーマが関わり合っていることに気づき、ジェンダーに関する問題に関連性があるということに気づかせるという狙いがあった。本時のまとめでは、ジェンダーについて考えることで、①当たり前を疑って見つめ直したり、客観的にみたりすること、②物事を関連付けて、多角的に見ること、③他者の意見を尊重しつつ、自分の考えを持つこと、の3点について触れた。これに関して、生徒の振り返りからは、①や③に関する意見が多く見られた。

2. 研究協議より

研究協議では、主に保健の授業で性の多様性やジェンダーについて取り扱うことについて議論がなされた。本単元は、「包括的性教育」の概念を取り入れ、現行の学習指導要領や教科書では触れられていないジェンダーについて取り扱うこととした。「包括的性教育」とは、ユネスコなどがまとめた性教育についての指針である「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」の中で、「性に関する知識やスキルだけでなく、人権やジェンダー観、多様性、幸福を学ぶこと」と定義づけられている。しかしながら、性に関する価値観が多様化する中で、LGBT のみに注目されることへの懸念や、性の多様性だけでなく、学校現場における多様性にも注目すべきであることが指摘された。また、単元を通しての落としどころが分かりにくいことが改善点として挙げられた。第四次の学習目標としては、①「女らしさ」「男らしさ」の枠組みにとらわれず、自分がどう生きていくかを考えるきっかけとして、②性に関する多様な価値観やアイデンティティを持つ他者を理解し関わっていくための入り口として、の2点を挙げていた。そのため、ジェンダーや性の多様性に関する考えは人それぞれあるといったオープンエンドなまとめとなってしまった。同様に、テーマについても広範囲にわたっていたため、保健の内容を越えていたものもあった。社会科や総合的な学習ではなく、保健の授業内で取り扱うからこそ、「健康」との繋がりに着目したまとめとなるようテーマや調べる内容を焦点化することが今後の課題である。

